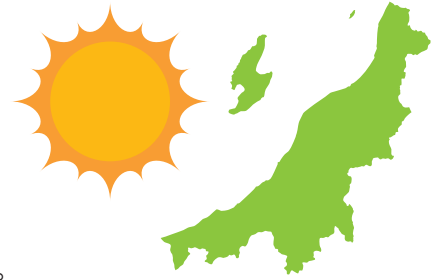


最新！新潟県の気象状況まとめ！



- ・新潟市の平均気温は過去100年間で1.3℃上昇(高田は1.6℃上昇)。
- ・新潟市の雷発生日数は増加傾向である。
- ・新潟市の降水量は、夏は増加(38%増)、冬は減少(17%減)傾向にある。
- ・新潟市における35℃以上猛暑日は、現在年平均3.2日。21世紀末には年25日程度になる可能性が高い。
- ・冬の日本海側で、雨の降らない日が増加する可能性が高い。
- ・短時間豪雨の増加により、洪水等自然災害リスクが増える。

気象庁データより。

「Eco列車でいこう！」～第107回～ 雪の大谷と室堂トレッキング！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！)



前夜のうちに、クルマで富山県立山町に入り、駅前の駐車場で仮眠を取った。

早朝5時20分。ケーブルカーの切符売り場に並ぶ。「立山黒部アルペンルート」の北の玄関口、立山駅にはすでに100人以上の行列が出来ていた。ゴールデンウィーク期間中は、乗車が2～3時間待ちになることもあるらしい。

早くから行列に並んだので、6:20発のケーブルカーの切符を入手することができた。クルマに戻り、リュックサックに必要なものを詰め、毛糸の帽子や手袋など、寒さ対策を万全にして出発した。

ケーブルカーに乗車し、立山駅を下に見ながら、わずか7分で「美女平」着。標高977mだが、ここはまだ寒くはないし、残雪もない。6:40発の高原バスに乗り換える。大きな窓ときれいな車内。快適なバスだ。

白樺などの樹林帯を進みながら高原バスはどんどん標高を稼いでいく。徐々に残雪が増え、「弥陀ヶ原」を通過し森林限界を超えると、樹木がまばらになり眺望が良くなる。「剣岳」など北アルプスの名峰がすぐ目の前にある。快晴の空。朝の清々しさが素晴らしい。「来てよかった」と思った。

午前7:30。目的地である標高2,450mの「室堂」に到着した。気温は5℃くらいであろうか。寒いので暖かいものが飲みたくなる。早朝ではあるが、バスターミナルに隣接する「ホテル立山」のお土産屋やレストランが開店していた。持参のパンとおにぎりで朝食を済まし、トレッキング開始だ。ターミナルから少し歩くと、氷結している「みくりが池」に出る。事前の情報で「ライチョウが見られるかもしれない。」とのことだったので、注意をしながら雪原の遊歩道を歩いた。途中、「みくりが池温泉」がある。ここは日本で最も標高の高い温泉だということだ。快晴の中、雪原散策は楽しい。標高による息苦しさもない。ベンチに寝転んで空を見上げたり、遠くの山々を見渡したり、約1時間30分、気持ちよくトレッキングをしてターミナルに戻った。

少し休憩したあと、楽しみにしていた「雪の大谷」へ。道路沿いに高く積み上げられた雪の壁は圧巻だ。この日の高さは16メートル。

「みくりが池」方面と違い、軽装の観光客が多い。雪の壁をバックに、写真を撮る外国人客もたくさんいた。

一通り歩いた後、11:20のバスで下山した。一気に2000mを下った標高475mの立山駅周辺は新緑がまぶしく、温度計は24℃を指していた。



(左:「雪の大谷」を行くバス)
(右:室堂トレッキングにて)

【4月30日(振替休)】

立	山	6:20
	(ケーブルカー)	
美	女	6:27
		6:40
	(高原バス)	
室	堂	7:30
	(トレッキング)	
	(雪の大谷)	
		11:20
美	女	12:10
		12:20
立	山	12:27